

掛川工業高校

飲食店から考える掛川活性化



今月は掛川工業高校の生徒3人が、掛川を活性化させる方法について記事を作成してくれました。

話し合いのなかでまとまった、飲食店に注目した2つの提案のほか、さまざまな立場の人が集まり意見を言い合える場の重要性について紹介します。

☎観光・シティプロモーション課 (☎21-1121)

高校生が立ち寄れるお店が少ない掛川市

「交通の便はいいけど、見所が少ない」「どこにどんなお店があるのか知らない」そんな意見が掛川のイメージとして挙がっています。高校生の視点から見ても、掛川駅周辺や高校から駅までの道中に学生が気軽に立ち寄れるようなお店が少ないと感じます。

今回はこれらのポイントに着目し、掛川を活性化させる2つの方法を考えました。

① 駅周辺店舗の昼夜別営業

駅周辺にある店舗で、昼と夜で違うお店を営業するという案です。

駅の構内や周辺には多くの居酒屋やバーがあります。これらの店舗は、夜間に営業をしています。昼どきに営業しているお店は少ないと感じます。夜はバーでも、昼はカフェといった2つの顔、スタイルをもつお店が増えたら、学生や家族連れなども利用でき、より掛川の街なかが活性化するのはないでしょうか。

また、お店の内装にプロジェクトやマップングを活用して、昼と夜で見た目や雰囲気を変えるなど、これまでにない新たな仕組みができれば、話題性もあり、市内外から多くの人

を呼ぶことができると思います。

② 隠れた名店同士で移動販売車

ローカル店で協力して、市内を巡る出張販売を行うという案です。

昔からある石焼き芋や、最近よく見かけるクレープやピザなどの移動販売車は、時折とても魅力的に見えることがあります。市内には地元の方にしか知られていないような隠れたローカル店が多くあります。それらの店が日替わりで各地域をまわることで、遠くてなかなかお店に行けないと感じている方や、そもそもお店を知らないという方などにも利用してもらえないのでしょうか。

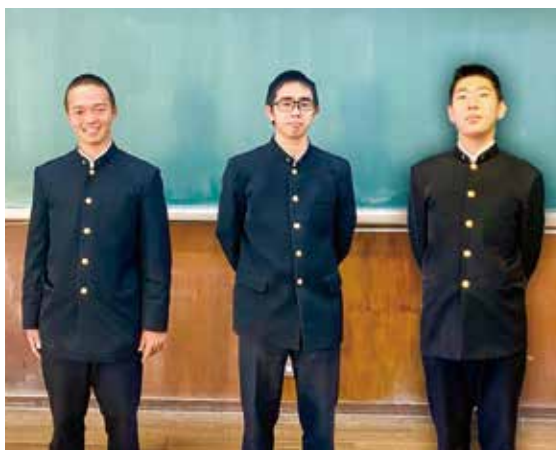
特に、車で移動できない高校生にとっては、市内のさまざまなお店を身近に感じられるきっかけになると思います。

さまざまな立場の人の関わりが新しいアイデアを生む

今回、掛川を活性化させる案を話し合うなかで、特に飲食店に注目して考えましたが、ほかの視点から考えるとさまざまな案が浮かぶのではないかと感じました。未来の掛川を考えると、年齢や職業などによって、いろいろな考えや意見があると思います。そんなさまざまな立場の

人が集まり、互いに意見を言い合える機会があれば、そこから掛川をより良くしていく新たなアイデアが生まれるのではないのでしょうか。

私たち高校生もどうしたら掛川が良くなっていくか考え、そうした機会を活用して若い世代の意見を発信していくことが重要だと思っています。そうすることで、市の掲げる「希望がみえるまち、誰もが住みたくなるまち」の実現に一歩近づけるのではないのでしょうか。



この記事は私たちが作りました！

右から
山田ゆきおさん
新井隆史さん
大角晋太郎さん



市ホームページ
高校生が描く掛川